

「やわらかな土から」の仲間たち

「やわらかな土から」は、仙台市内を中心に活動する3つの団体が構成しています。TRACを共同運営する上で、コンセプトとして「立ち上がりの技術」を掲げています。

一般社団法人 NOOK

仙台市を拠点として発足した、土地と協働しながら記録をつくる組織。アーティスト、研究者、プロデューサーがさまざまなメディアを活用しながら、調査・記録・制作を行い、社会の中で「ドキュメンテーション」を実践する。これまでに、東北における伝承民話の映像記録、「みちのくアート巡礼キャンプ」コーディネート・記録、舞台公演『ミクストジャーニー』の制作進行・舞台美術制作などを手がけている。

nook.or.jp



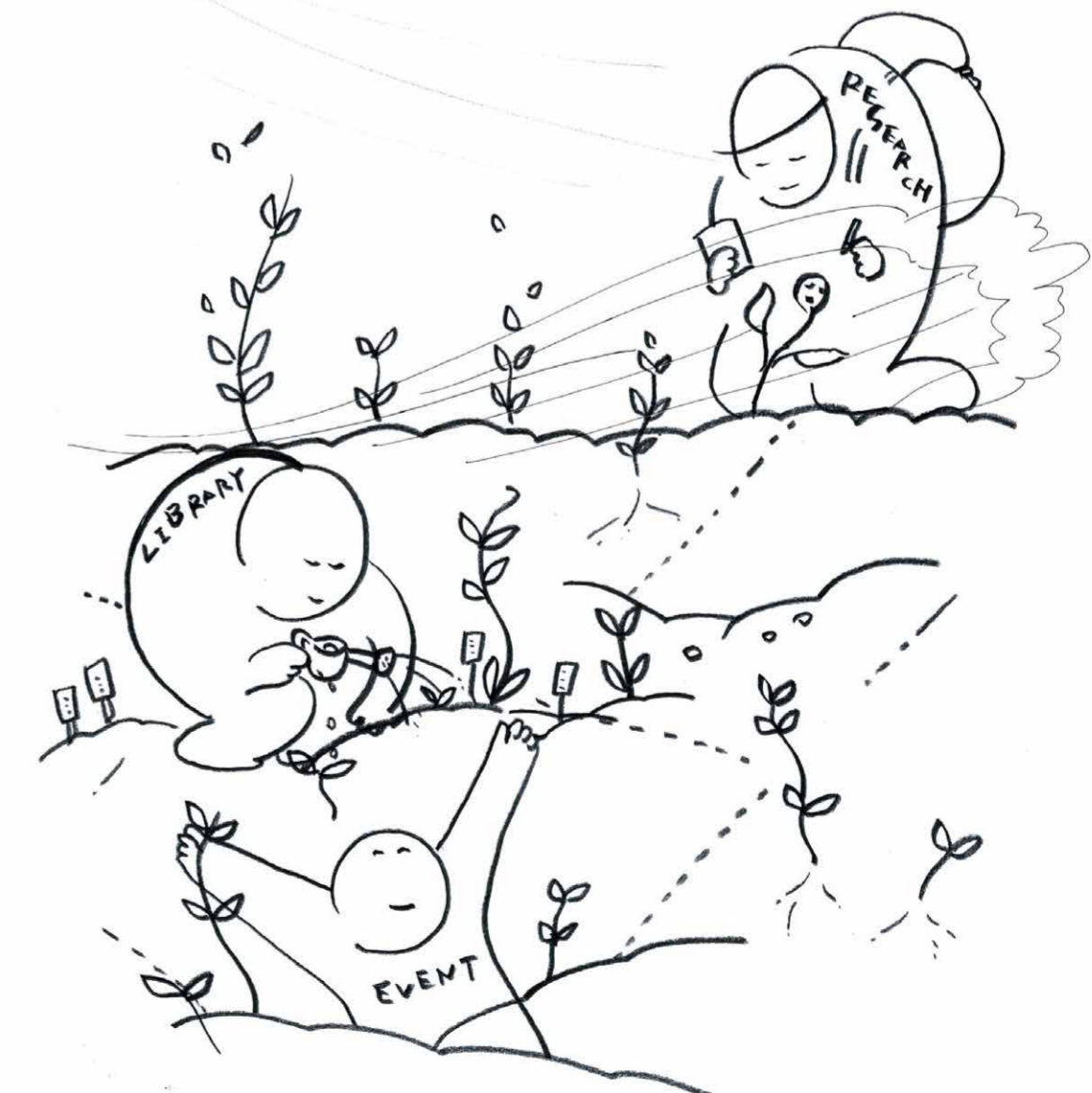
コンセプト

「立ち上がりの技術」とは？

震災はさまざまな出来事をもたらしましたが、私たちには、同時にあの大きな揺れが、この土地の固定化された区分けや概念をやわらかくほぐしてくれたという実感があります。

私たちは、震災後の仙台・東北の地を“アート=表現の技術”が育つ豊かな土壌と捉え、この土地に芽吹いたさまざまな技術や知識、表現を拾い集め、まなざしていきます。

また、災厄に遭うことや心身におけるハンディを持つこと、マイノリティの立場に置かれることなどから「立ち上がっていく」ための表現やその手法に注目したりサーチを行い、現在の東北にも応用可能な表現の技術を見出します。



NPO法人 エイブル・アート・ジャパン

障害のある人々とアートをつなぐ中間支援組織。さまざまな立場の人やグループ・団体が出会い、交流する機会をつくり、社会変革につながる共感や感動を生み出すことを目標に全国各地で活動する。おもな事業に、SOUP（障害者芸術活動支援センター@宮城）の運営、エイブルアート・カンパニー「ライセンス事業」、A/A galleryの運営など。

www.ableart.org

ABLE
ART
JAPAN



3.11オモイデアーカイブ

仙台市でアーカイブ活動を通じた市民協働を行う団体。「3.11からはじまる、まちと人のオモイデをキロクする」をテーマに、市民自らが震災前後のまちの暮らしと人々の営みを結ぶ記録を編集し、その活用を考えていく「記憶を育てるアーカイブ」を実践。震災アーカイブと地域アーカイブの一本化に取り組む。おもな事業に、「3.11定点撮影プロジェクト」「3.11オモイデツアー」の企画・運営など。

sendai-city.net/omoide

